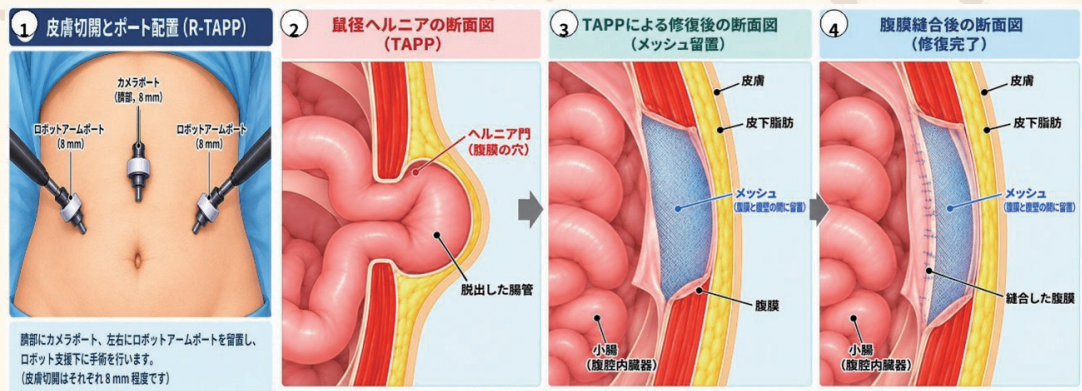


ロボット支援鼠径ヘルニア修復術を導入しました

当院では2026年9月より、手術支援ロボット「da Vinci Xi」を用いたロボット支援鼠径ヘルニア修復術(R-TAPP)を導入しました。

鼠径ヘルニアは、足の付け根(鼠径部)から腸などが脱出する疾患で、当院ではこれまで腹腔鏡下手術を中心に治療を行ってきました。R-TAPPでは、鮮明な3D拡大視野と自由度の高い多関節鉗子を活用することで、鼠径部の細かな解剖を確認しながら精緻な操作を行うことができます。

患者さんにとっては、従来の腹腔鏡手術と同様に小さな傷から行う手術で、ロボットを使用することで手術費用が特別に高くなるわけではありません。ロボット手術の特長を活かしながら、より丁寧で安定した手術操作を目指します。

R-TAPPの
手術の流れ

◆ 安全な導入に向けて

8月29日に中部徳洲会病院を訪問し、R-TAPPを見学しました。

さらに9月11日には、同院ヘルニアセンター長の井谷史嗣先生をお招きし、ご指導のもと当院での第1例、第2例を実施しました。9月15日には第3例を当院独立で実施し、院内での手術体制の整備を進めています。

今後も、従来の腹腔鏡下手術を含め、それぞれの患者さんの病態に応じて適切な術式を選択し、安全で質の高い鼠径ヘルニア治療を提供していきます。

